

## 令和 5 年度 【 学園研究費助成金 &lt; B &gt; 】 研究成果報告書

学部名 教育学部

フリガナ ノザキ ケンタロウ  
氏名 野崎 健太郎

研究期間 令和 5 年度

研究課題名 保育および義務教育課程の科学教育に資する地域の自然図鑑の制作

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	野崎 健太郎	教育学部	准教授
研究協力者	河合 寿八	岡崎市役所	
研究協力者	黒田 渉	豊田市立梅坪台中学校	教頭

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

自然体験が子どもたちの発達に及ぼす正の教育効果は、近年、定量的な研究が進められ、次第に根拠を伴いつつある。その一方で、若手の保育者と教師は成長の過程で自然体験が乏しく、自身が実践することに躊躇する傾向が指摘されている。この躊躇する原因の 1 つとして、自分が実践する地域の自然環境を総合的に俯瞰できる資料の不足が挙げられる。なぜならば、自然環境は地域性が強く表れ、例えば園庭、校庭や公園に咲いている野の花の種類を探する場合、1 つ 1 つ詳しい図鑑を参照していくことは、多忙な保育者・教師にとって困難な作業である。したがって、その地域に特化し、生物や自然環境全体が含まれている資料を作成することは保育者・教師の負担軽減に寄与し、自然体験学習への心の敷居を下げることにつながるであろう。

## 2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

本研究課題の準備研究として 2022 年 4 月から 2023 年 2 月にかけて、研究代表者が PTA 会長を務めていた豊田市立梅坪台中学校において「梅坪の自然」0～12 号を作成し、教頭（研究協力者の黒田渉）との協働で 13 回発行した。この企画は、野の花を中心に、樹木、川の水生生物、湧水の地理学を扱い、一部は PTA 広報誌「空の雲」に「梅坪の自然 mini」として連載された。この連載は、同中学校の生徒、理科教員や保護者からの反応がよく、2023 年度も継続して発行することが PTA 総会で決定された。この企画を通じて、中学校や保護者の一部からは、とりまとめて冊子体を発行し教材化する要望を受けた。本研究課題が採択され、冊子体が発行された場合には、冊子に椋山女学園の支援を受けたことが記載され、それは学園の広報につながると思われる。そこで、新たに河合寿八を研究協力者とし連載を進めた。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

#### 1. 「梅坪の自然」の編集・発行

2022年度～2023年度に、「梅坪の自然」を29号まで作成し、豊田市立梅坪台中学校に掲示を行った。それらに加筆、修正を加え、本文58ページの冊子、「梅坪の自然」を発行した。この冊子は150部作成し、その内50部は教師用として電子ファイルを記録したCD-ROMを添付した。この電子ファイルは、児童・生徒のタブレットに記録し、電子教材としての使用に対応している。今後は、この冊子を豊田市内の小中学校、図書館、交流館（公民館）に無料配布し、地域の自然誌を学ぶ教材として利用してもらおう。合わせて椋山女学園大学機関リポジトリにも掲載し、インターネットで広く配信することも行う。

#### 2. 絵本「つながるいのち」の作成

2023年度の卒業研究指導学生と協力して、幼児への環境教育教材として、自然界の物質循環の意義を知らせる絵本を作成した。こちらは、科学研究費・基盤研究C「池と空き地から始まる小さな探究者の育みー物質循環を基盤とした幼児の科学教育ー（2021年度～2023年度）21K02911」との連携で実施した。絵本の題材としては、落葉とその分解者であるダンゴムシを選び、まず基礎情報を得るためにダンゴムシを飼育し、落葉の分解速度を測定した。引き続き、その結果をもとに、保育園・幼稚園を舞台とし、幼児たちがダンゴムシの飼育を通じて、落葉の分解、そして、それが物質循環（元素循環）を通じて他の「いのち」を支えていることを理解する内容を描いた絵本「つながるいのち」を作成した。

#### 3. 名古屋市の里山の野鳥のカード図鑑の作成

2023年度の卒業研究指導学生と協力して、名古屋市緑区と千種区の里山で観察することができる野鳥のカード図鑑の試作を行った。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①身近な自然	②図鑑	③幼児教育	④科学教育
⑤自然体験	⑥物質循環	⑦環境問題	⑧PTA

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

- 1) 梅坪の自然研究会 (野崎健太郎・河合寿八・黒田渉) : 梅坪の自然 (冊子体). 2024年2月26日発行 (印刷中), 三星印刷.
- 2) 梅坪の自然研究会 (野崎健太郎・河合寿八・黒田渉) : 梅坪の自然 (電子体). 2024年2月26日発行 (作成中), 三星印刷.
- 3) 野村沙希・野崎健太郎 : つながるいのち (絵本, 冊子体). 2024年2月26日発行 (印刷中), 三星印刷.
- 4) 野崎健太郎・森 和久 (2024) 名古屋市の市街地における学校ビオトープの湧水を用いた体験型市民講座の実践. 湿地研究, 14 (1) : 印刷中.